

教育フォーラム「不登校を考える」

不登校・ひきこもりと地域に求められるもの

く子どもと歩む保護者たちの思いに寄り添って

【日時】2019年1月26日(土)午後2時～4時30分

【会場】ひかりプラザ (203・204号室)

【講師】広木 克行さん (神戸大学名誉教授)

【参加者】73名

(前回のつづき)だから「この人に言ってもわかってくれない、言っても返ってくるのは何か正しいような答えだけで、私の悩みを話しても何の意味もない」と感じている母親たちが多いのです。助言の正しさ以前に共感し合える関係が出来ることこそが大切。これが苦しむわが子を見て苦しんでいる親たちを支えるとはどういうことかを考えるときに、とっても大事なことだと教えられました。

こうして子どもたちに表れた最初のシグナル、そのシグナルを子どもの問題と捉えたり、それで慌てる親たちに「そんなことをしているから子どもがダメになるのですよ」などと、親をさらに追い詰めるようなことを聞いた親たちは決して少なくありません。残念ながらそれは相談にはなっていないと思います。子どもの不登校の最初のシグナルは苦しみの果ての症状として表れたシグナルです。そのところをしっかりと押さえて自分のお子さんの不登校体験を振り返りながら、あるいは今体験している人は自分の苦しみに重ねながら、ひょっとしたらこの不安が、この迷いが

それに当たるかもしれないという思いを大切に
してこの話を聞いていただきたいと思います。

その次の二つ目に表れるシグナルは多くの場合、行動に表れるシグナルです。行動に表れるシグナルの多くは暴力またはパニック、自傷的なパニックです。暴力は他者に向かう暴力と、自己に向かう暴力の二つがあります。今他者に向かう暴力といいましたが、それは外に向かう暴力といってもいいのですがそれには二つあります。対物暴力と対人暴力です。最初から人に暴力をふるうというのはあまり聞いたことはありません。まず物です。障子を引き裂いたり、ふすまに穴をあけたり、自分も痛いだろうけど、壁を思いっきり拳固で突いたりしてへこませる。それが何か所もできると親はいったい何事が起きているのだろう、家が壊されるのではないかと思うくらい深刻な事態になります。

そうやって家庭で暴力をふるって金属バットで家の中を壊し始めた高一の男の子に会いに行ったことがあります。子どもの了解がとれたと言ってお母さんに頼まれて、その子の家を訪ねました。家の中のものはほとんど形を留めてはいませんでした。ただ正常だったのはテレビとパソコンだけです。テレビやパソコンがないと時間を過ごすのが難しいからだと思います。こんなにまで暴力をふるいたくなるほどの苦しみて何だろうと思いつながら先ずお母さんと話をしました。その子はこたつに肩まで入って横になっていましたが、下着だけだということでした。お母さんが話すには「昨日自分が着たものは、汚れた自分が着たので汚れているからそれは全部燃やせ」と、庭にドラム缶のようなものを置いて「その中で昨日着た洋服や下着を全部燃やすのが一日の始まりです」ということでした。自分が触れたものは一つとして

て許せないという気持ちを行動化して、彼は自分の苦しみを表していました。ほんとに深刻なケースでした。

子どもとの初めての出会いではよくするのですが、この場合もいつものように彼の反応を見ながら少し長い自己紹介をしました。彼に「話しても大丈夫」と思ってもらえるような信頼関係を築きたいからです。話しているうちに夕ご飯の時間になりました。そしてらお母さんが「お寿司の出前でもいいですか？ 実は尖ったものは一つも置けないのです。それで何をするかわからない。自分を刺すかもしれないので包丁も箸も置けない。だから食事のたびに割りばしを持って来てくれる店屋物をとるしかないのです。」と言いい、お寿司を注文してくれました。そんなふうに彼は深い自己否定の精神状態でものに当たり、自分にも危害を加えかねない状態のようでした。でもお母さんには決して手を出していなかったのです。私はその親子関係に込めた彼の思いこそ話し合いのきっかけになるのではないかと思いました。お母さんに助けを求めたいし、お母さんが頼りだがそれを伝えることが出来ない何かがある。それがこの子が発するシグナルの一つの意味なのだと思います。

プライバシーの問題もあるのでここではその詳細は省きますが、その後信頼できる精神科医に出会うことが出来た彼は、やがてお父さんの仕事を手伝うようになるまで家族関係を改善していくのです。しかしそれには1年以上の月日がかかりました。自分からお母さんに「すこしく心配をかけってしまったね」と言って、ちゃんと服を着て話すようになっていった彼の変化を親の会で聞きながら、それは間違いなく親の会に参加して学び続け子どもをとことん受け入れ続けたお母さんの力なしには考えられない変化だと私は確信しま

した。このように子どもの症状や行動をシグナルとしてとらえ、子どもへの理解を深めつつ受け入れられる親として親自身が成長していく姿こそ、子どもから自ら変わる力を引き出す最も確かな拠り所であることを私はこの家族からも教えて貰ったのです。(次回につづく)

国分寺市不登校を考える親の会(さくら草の会)

通信250号 2025 12月27発行



次回の定例会は1月24日です。定例会は第四土曜日2時から4時。会場はひかりプラザの予定です。地域を問わずどなたでもご参加ください。参加無料、予約も連絡も不要です。

カット (ヒメツルソバ)

事務局 石井ひろ子 042-502-7558 (留守電にメッセージを入れてください。おりかえします。) さくら草の会のホームページもらんぐください。

<http://inomck.wixsite.com/sakurasounokai>